

平成30年度(2018年度)

管理事業名	市民プール事業			総合計画の体系	第4章 個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 第3節 スポーツに親しめるまちづくり
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費 (目) 36 市民プール費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室		
予算大事業名	市民プール管理事業				
		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名			
<b>事業の目的と概要</b> 指定管理者制度において、2か所(片山、北千里)の市民プールの管理・運営を行うとともに、安全な施設の整備に努め、健全なスポーツ活動の場を提供します。					

Ⅰ 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
施設利用者数、目標利用者数 307,293人	人	283,200	265,763	68,320	片山・北千里市民プールの総利用者数
市民プール使用料収入額	千円	50,681	46,385	9,052	片山・北千里市民プールの使用料収入決算額
成果の説明	平成28年から個人使用トレーニング室のみの利用ができるようになりました。 平成30年に発生した大阪府北部地震による閉館(同年8月25日より北千里夏期プール再開、10月1日より片山トレーニング室再開)のため、前年度比で、利用者数は197,443人(74.3%)、使用料収入は37,333千円(80.5%)減少しました。 【災害による各室の閉館期間(平成30年6月18日～)】 片山市民プール:トレーニング室は平成30年10月1日再開。屋外プールは令和元年7月1日再開。屋内プールは閉館中。 北千里市民プール:平成30年8月25日再開。(同年9月4日の台風21号に伴い再度閉館し、令和元年7月1日再開)				

Ⅱ 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
<b>使用料及び手数料</b>	<b>50,684</b>	<b>46,385</b>	<b>9,052</b>	<b>△37,333</b>
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	2,245	2,245	2,547	302
経常収入 小計(a)	52,929	48,630	11,599	△37,031
給与関係費	3,612	2,771	5,019	2,247
<b>物件費</b>	<b>273,848</b>	<b>209,312</b>	<b>170,473</b>	<b>△38,839</b>
<b>維持補修費</b>	<b>10,351</b>	<b>57,399</b>	<b>16,061</b>	<b>△41,337</b>
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	-	-	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	29,350	29,566	32,681	3,115
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	494	188	473	285
退職手当引当金繰入額	385	△870	2,358	3,227
支払利息	-	-	-	-
その他	-	0	-	△0
経常費用 小計(b)	318,040	298,367	227,066	△71,301
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△265,111	△249,737	△215,466	34,270
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	3,887	-	△3,887
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	3,887	-	△3,887
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	△3,887	-	3,887
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△265,111	△253,624	△215,466	38,158
一般財源充当額	235,596	286,926	182,329	△104,596
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△29,515	33,302	△33,137	△66,439

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	使用料収入額 9,052千円
物件費	指定管理委託料 151,398千円 震災に伴う調査業務委託料 7,506千円 災害倒木処理伐採業務委託料 378千円 片山室内プール他改修設計委託料 5,648千円
維持補修費	北千里震災補修工事 9,310千円 片山トレーニングルーム関連補修工事 2,484千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	52,929	48,630	11,599	△37,031
行政サービス活動支出	288,526	270,235	192,212	△78,023
行政サービス活動収支差額	△235,596	△221,605	△180,613	40,992
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	65,321	11,317	△54,004
投資活動収支差額	-	△65,321	△11,317	54,004
財務活動収入	-	-	9,600	9,600
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	9,600	9,600
収支差額 合計	△235,596	△286,926	△182,329	104,596
一般財源充当額	235,596	286,926	182,329	△104,596
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成28年度	283,200人	1,123円	市民プール(2か所)の利用者1人あたり 3,324円のコストがかかっています。震災による閉館に伴う利用者減の影響により1人あたりのコストが増加しました。
	平成29年度	265,763人	1,123円	
	平成30年度	68,320人	3,324円	
開場1日あたりのコスト	平成28年度	377日	843,608円	市民プール(2か所)の1か所1日あたり、1,004,715円のコストがかかっています。震災による閉館の影響により1日あたりのコストが大幅に増加しました。
	平成29年度	377日	791,423円	
	平成30年度	226日	1,004,715円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	188	473	285
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	188	473	285
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	585,749	564,384	△21,364	その他流動負債	-	-	-
土地	-	-	-	固定負債	2,600	14,087	11,487
建物・工作物	585,749	564,384	△21,364	地方債	-	9,600	9,600
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	2,600	4,487	1,887
無形固定資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	2,788	14,560	11,773
建物・工作物	-	-	-	純資産	582,961	549,824	△33,137
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	0	0	-
重要物品	0	0	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	585,749	564,384	△21,364
資産の部合計	585,749	564,384	△21,364	負債及び純資産の部合計	585,749	564,384	△21,364

Ⅲ 財務構造分析

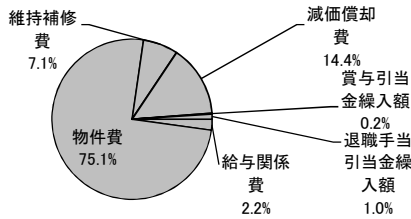
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇用員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	0.68 人			4 人	7,850
給与関係費等	7,791 千円			59 千円	
内、時間外勤務手当	138 千円				

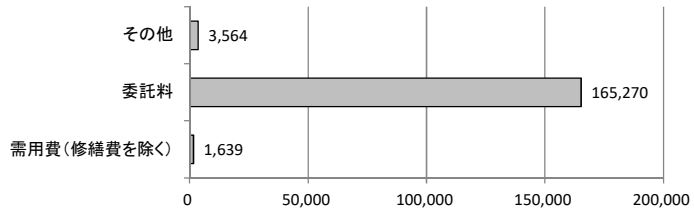
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	減価償却による減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立片山市民プールほか1か所
取得年月日	昭和37年(1962年)8月2日(供用開始)ほか
建物・工作物の取得価額	1,581,351 千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,016,966 千円
利用料金収入	9,052 千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	0.7	3.7	1.0	△ 2.7
施設老朽化比率	64.7	62.7	64.3	1.6
受益者負担比率	15.9	15.5	4.0	△ 11.5
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	81.7	85.5	89.6	4.1
経常費用対公共資産比率	20.3	19.0	14.4	△ 4.6

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

既存施設の老朽化が64.3%と1.6ポイント後退しました。  
コスト全体の75.1%を物件費が占め、そのうちの88.8%を指定管理委託料が占めています。また、減価償却費がコスト全体の14.4%を占めています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

市民プール(片山、北千里)は、平成18年度から指定管理者制度を導入しています。  
市保有施設全体の老朽化率と比較して、64.3%と老朽化は進行しています。維持補修の実施だけでは施設の維持が難しくなっており、長期修繕計画のもと、機器の更新を含め計画的に進めていく必要があります。  
平成30年度は、片山市民プール幼児用変形プール防水シート改修工事(14,828千円)や、北千里市民プールフェンス他修繕工事(756千円)のほか、大阪府北部地震および台風21号による被害に伴う調査や補修工事などを行いました。  
令和元年度は、北千里市民プール変形プールろ過装置取替工事や、片山市民プール外壁改修や受変電設備工事のほか、災害復旧に関して片山市民プールのブロック塀撤去工事や、屋内プール修繕工事などを、実施していく必要があります。  
今後も備品更新・維持補修の財源確保も含め、計画的に維持補修を実施し、施設の長寿命化を図ることが必要です。